

会議録（概要）

会議の名称	平成 30 年度 第 1 回佐渡市博物館協議会
開催日時	平成 30 年 7 月 12 日（木） 13 時 30 分開会 15 時 30 分閉会
場所	佐渡中央会館 集会室
議題	1 開会 2 あいさつ 3 職員紹介 4 報告事項 5 議事 6 その他 7 閉会
会議の公開・非公開 （非公開とした場合は、その理由）	公開
出席者	佐渡博物館協議会 委 員 会 長 臼杵 國男（社会教育関係者） 副会長 池田 雄彦（学識経験者） 委 員 小見 秀男（学識経験者） 委 員 加藤 恭子（学識経験者） 委 員 石川 喜美子（学識経験者） 委 員 萩野 正作（学識経験者） 委 員 伊藤 正一（学識経験者） 事務局（社会教育課） 教育長 渡邊 尚人 課 長 渡辺 竜五 佐渡学センター長 岡部 欽也 係 長 本間 克彦 主 任 土屋 仁 主 任 中川 優子 主 事 五十嵐 麻湖 主 事 井野端 圭介 指導員 高藤 一郎平 指導員 相田 満久
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	0 人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
岡部センター長	1 開会
渡邊教育長	2 開会のあいさつ 3 職員紹介
岡部センター長	4 報告事項
本間係長	（１）博物館・資料館の取り組み ・佐渡博物館は平成 27 年度に明確化した佐渡博物館の基本理念をもとに事業を実施。特別展の実績および中庭「旧浅島家住宅主屋」「旧土屋家住宅土蔵」について登録有形文化財の申請を行ったことを報告。 ・新穂歴史民俗資料館の企画展および「のろま人形上演会」の実績について報告。平成 27 年 4 月から、資料館管理業務及び企画を「新穂の歴史と民俗を考える会（新穂資料館友の会）」に委託していることを報告。 ・相川郷土博物館の資料の統一様式デジタル化台帳の作成着手（平成 29 年の実績で 1,933 点）について報告。 ・佐渡植物園の企画展の実績について報告。 ・佐渡国小木民俗博物館・白山丸展示館のイベントおよび資料の統一様式デジタル化台帳の作成着手（平成 29 年の実績で 237 点）について報告。 （２）講演会等 ・新潟大学人文学部連携協定事業としてシンポジウムおよびセミナーを開催したことを報告。 （３）キャリア教育 ・『世界文化遺産を目指す佐渡金銀山』に関連する取り組みとして、島内小学校を対象とした「小学生による佐渡金銀山関係の郷土学習」の成果を報告。 （４）イベント等 ・文化庁補助事業「佐渡民謡の祝祭」の実績を報告。 （５）情報発信 ・特別展等にかかる情報発信の状況を報告。
池田副会長	両津郷土博物館が休館になっていますが、法的にはどのような形になっているのでしょうか？博物館と名前が付いている物ですから、県や国の登録の関係を教えてください。
渡辺課長	休館中ですが、登録博物館のままです。150 日開けなければいけないという課題は、来館希望の中でクリアしたいと思っています。が、実際は希望数が少なく、開館日数は足りません。問題であると認識しておりますが、対応については博物館の方

	向性等の中で整理をさせていただきたいと思います。
池田副会長	現状は変わらないという事ですか？
渡辺課長	はい。変わらないという事です。
高藤指導員	昨年の博物館協議会において、佐渡の市立博物館を一本化する方針で了承を貰っております。八幡にある佐渡市立佐渡博物館、他の施設は分館として、博物館登録も一つにまとめるという事で、今年3月の社会教育委員会に報告してあります。ですので、今年はその方向で進むのだと思いますが、そのためには条例改正などが必要になりますし、県への登録博物館、今では両津、相川、佐渡博物館、小木、羽茂植物園が分かれて別々に登録になっていますが、それを一つにしていくと理解しています。
本間係長	昨年4月11日に発生した金塊レプリカ盗難事件ですが、8月に犯人が逮捕され、昨年末に被告人の弁護士と示談に向けて協議を行いました。今年度、佐渡市議会の議決を受けまして、正式に示談が成立しました事を報告いたします。示談金は今月7月6日に佐渡市の口座に振り込まれました。 今後、金塊レプリカ再展示はしない方向で考えています。議会でも金塊レプリカの再展示を行うのかという質問がありまして、博物館協議会に計るという事になっておりますので、皆様のご意見を聞かせていただきたいと思います。
岡部センター長	盗難されたレプリカは帰ってきていませんが、レプリカの費用は、示談が済み、示談金が入金された状態です。今後、再展示はしない方向で考えていますが、議会から今後についての質問を受けておりまして、この機会に意見を頂戴したいなと思っています。今日の議題は報告事項ですが、よろしくお願いします。
渡辺課長	補足します。相川金銀山の観光に行くと金塊があり、お客様が楽しめるような状態です。我々としては、歴史を伝える博物館に金塊レプリカを置いておく必要はないのではと考えています。スペースの活用方法を考えた方が、より史実に近いものを出せるのではないかと考える中で、100万円ほどかかるレプリカに予算をつけるより、博物館自体に抛出した方がいいのではないかと考えています。
小見委員	美術館などは、基本的にレプリカ展示はやらないんですが、きちんと目的があって複製物が展示されてるのはいいと思います。 ただ、今回の金塊に関しては、世界遺産を推進するために色々苦労されている中で展示がなされたんじゃないかと思うんですが……。
高藤指導員	鉱山が休山する最後の産出としてやったんでしょう。
岡部センター長	そうですね。平成元年3月31日で佐渡金山が閉山になるものだから、その最後

	の鉱石でできた金と銀で……という思いで（当時の相川町が）作ったところがあって、目的を持って展示したわけではないようです。それを再展示となると、1 階の展示のテーマ性は一切関係なく置かれています。
小見委員	私は置く必要はないんじゃないかと思います。金塊のレプリカというと全体が金で出来ている印象がありますが、今話聞いたら鉱石という事ですが、金になる前の土も全部含まれて作られているのでしょうか？
岡部センター長	金と銀のインゴットです。
池田副会長	最後の金塊ですという表示はあったんです。レプリカですという表現はなかったです。最後の銀塊もあったから、銀もこんなに採れていたのかという印象で何度か訪れていますが、レプリカっていう表現はなかったですよ？盗んだ方も本物だと思いついていたという事もあるので。
岡部センター長	おそらくそれで銀を持って行かなかったんでしょうね。一つ 30 キロ前後です。
池田副会長	銀は本物でしたっけ？
岡部センター長	銀は本物です。その事件があった時も、佐渡市のホームページで今まで嘘をついていたんですねという投書がありました。レプリカを作った職員の思いとしては、本物を展示したかったんじゃないかと思います。
石川委員	なくてもいいのではないかと思います。もし再展示するなら、鉱物の方をして欲しいと思います。浮遊選鉱場などに集めたのは金じゃなくて金が入った砂の状態だったと思うので、もし展示するのであれば、金になる前の状態のものを展示したらどうかと思う。浮遊選鉱で金が採れていると思っている方の方が多いから、そのようなのが可能であれば。
池田副会長	私も展示しなくていいと思うのですが、ゴールデンさんの施設と、新しいガイダンス施設と、こことが残るのであれば、残してその方がいいのかなと思います。 中途半端な所もあると思います。最後に相川町でこんなの買ったんだよって、写真でもいいし。あそこでなくてもいいので、何らかの記録で残してあげてはどうでしょうか？
渡辺課長	先程おっしゃられたように、ゴールデン佐渡さん、博物館、さらにガイダンス施設が出来るわけですが、街歩きなどがある中で、特徴ある形が重要だと思います。
伊藤委員	本物は（ゴールデン佐渡に）あるわけだから、今後は工夫したらいいと思う。博物館は教育の場でもあるわけですから、本物じゃないからどっかやっちゃえ

	というのは。先程言ったレプリカを子どもたちに触らせたりすることは、はっきり「レプリカだ」と言って勉強してもらっていいと思う。博物館だからといって本物を置かなきゃいけないという事はないと思う。いろんな形でレプリカはできますから、そういう風に展示することも意味があるんじゃないかと思います。
池田副会長	鉛（奉行所）はそれをやっていますよね？重さも実物と同じ重さにして、型も。重さを体感できるようになっていますね。
石川委員	博物館の絵巻とかもみんなコピーですよね？そのようなものはたくさんあると思うので、必ずしも当時の物、実物だけが飾ってあるとはいえない部分が多々あると思います。再生された道具も確かにあると思うので、表示をきちんと「レプリカ」とすればいいと思う。やはりそうしないと見られないものもあります。
岡部センター長	検討したいと思います。それでは、議事に入ります。 （会長および副会長の互選） 委員名簿のとおり、9名の委員の中から会長・副会長を互選しますが、事務局一任でよろしいでしょうか？ （異議なし） それでは。会長に臼杵委員、副会長に池田副会長をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか？ （異議なし）
臼杵会長	5 議事
本間係長	1 佐渡市生涯学習推進計画で目指す方向は以下のとおり （1）豊かな情報で生涯学び続ける市民の島 （2）互いに助けあい活気あふれる地域の島 （3）自然を守りトキと共生する環境の島、 （4）歴史を学び後世に受け継ぐ伝統文化の島 （5）スポーツに親しみ心身共に活力を生む健康の島 2 佐渡学センターの重点目標 博物館・資料館に収蔵されている佐渡を中心とした歴史・芸術・民俗・産業・自然科学に関する資料を活用し、子どもたちや市民が見て、触れて、楽しみながら郷土を学ぶ事。 3 組織体制 資料のとおり。資料に文化振興係とあるが、7月2日付けで佐渡文化財団へ出向しており、事務所にいないことを報告。 4 年間事業計画

	資料のとおり。
岡部センター長	(資料の訂正)
池田副会長	レファレンス業務ですが、昨年度は大体何件くらいありましたか？
本間係長	お調べしてご報告します。
池田副会長	というのは、ちょっときつい表現かもしれませんが、あるマスコミの方が佐渡博物館へ問い合わせしたら、人を紹介して「そちらに聞いてください」と言われたと聞きました。「博物館の役目としてはどうなのか」と私にささやかれたんですが、今度から学芸員2人いますので、分からなくても一旦調べてから連絡するとして、調べてから回答して、さらに詳しいことが必要でしたらこのような専門の方がいますと紹介するとか、うまい言い回しで、博物館がある程度情報を掌握しているという雰囲気を出してもらいたいと思います。 分らないと、電話番号だけ紹介して終わりとなると、マスコミの方はそのような受け止め方をしますし、過去にそこに勤めた者としては恥ずかしいので、うまくやってほしいと思います。
伊藤委員	それに関連して、当時の佐渡博物館には、自然科学部門、社会科学部門、伝統芸能部門など、一般の人から学識経験者までが集まって会議をしていました。 例えば、自然科学は、生物、地学、ほか様々な分野の人が集まって、展示をどうするか、このような人がいたら誰が対応するか、などを相談していた気がします。私も当時は参加していましたが、博物館の嘱託ではないそのようなグループが、1年に1回か2回会議をして、何か問題はありますか？どのような展示をしますか？などと協議をしていたという事です。 そうすると、先ほど池田さんが言われたような質問が来た場合、博物館の中にいわる委託する形のグループがいるわけですから、専門の人にお聞きして後ほど回答させていただきますという手順を作っておく必要があると思います。学芸員の方も自分の専門分野意外となると皆目分からないわけですし、そのような組織を作っておくと便利かもしれません。
池田副会長	それこそ、幅がとても広いんですね。佐渡のことなら佐渡の博物館に訊けばわかると言うのが一般的な人の考えです。是非その辺を考えてほしいと思います。
岡部センター長	大事なことなので対処するようにしたいと思います。合併して10年経ちましたが、データベース自体、統一されていません。専門家は専門家でちゃんと答えなくてはいけないと思いますが、誰が見ても少しパソコンで調べると、この書物はあそこにあるよねとか、データベースがきちんとしていて、博物館にいる職員が誰でも答えられるようにしておかないとおけないのかなと思います。すぐにできますという回答はできませんが、ちゃんと体制を整えられるように向けていきたいと思います。

臼杵会長	この後、佐渡の世界遺産に関連して、非常に注目される可能性が高いですので、外部からそのような問合せ等が増えることも予想されますし、大事な部分は佐渡博物館がほぼ答えられるくらいの体制を整えて、佐渡のイメージをしっかりと発信していったほしいと思います。非常に大事なことだと思いますので、よろしくお願いします。
池田副会長	すぐに答えなくてもいいと思うんですよね。少しお時間頂きたいと言えば、相手にも理解してもらえらると思います。
臼杵会長	大変いいご指摘ありがとうございました。
伊藤委員	今回、良寛さんの大会がありましたね。私も良寛母の碑を久しぶりに見に行っただんですが、あそこに何か書いてあるんですよね。佐々木象堂さんが良寛さんの字に真似て書いたものを銅版に作ってあるんですが、なんて書いてあるか読めないんですね。文章になっている物は探していただいたんですが、それではなくてあそこに書いてある字が知りたいんだと。全部漢字なんですよ。万葉集とかと同じように漢字で音だけ拾っていくと何となく意味が通じるやつなので。 博物館に聞きに行ったら、何書いてあるかは見てないと言われてちょっとびっくりしました。非常勤の人だったんで仕方ないと思ったんですけど、そのような事は身近でもありまして。あれは良寛会に聞いてもなかなか分からないらしくて。
岡部センター長	博物館に限らずそのような苦情はたくさんあって、観光課にいた時、トライアスロンのコースでZ坂を上がった所に碑があって、同じように何が書いてあるんですかと質問を受けて、対応できませんでした。その辺は確かにおっしゃる通りです。 佐渡博物館に世阿弥の佐渡状がありますよね？三カ月間赤い大きな石があるけど何かなあと思っていて、よく見るとその佐渡状の文字が掘ってあるんですよね。文字があるのさえも分からずに、通り過ぎる人が多いんだろうなと思います。
石川委員	お客様が佐渡金山に来ると、色々書いてあるもの（碑など）の文字が違っているとか、そのようなことをよく聞きます。そのように指摘されていくお客様は、必ず「どうせ直さないだろうと思うけど」とおっしゃります。「何回来ても、あそこも行っただ。ここも行っただ。けれども直してないんだ。」と言われますけど、結構多いんですよ。私は何十年も佐渡金山にいますが、やはり直してくれないんです。ここ指摘されましたのでお願いしますと持って行っても、直してくれない。 だから、「また直さないだろうけど」と言われるようなことはしてはいけないんじゃないかと思いますし、テープ張りでも良いからすぐに直すべきだと思います。せめて直そうとしている意思だけでも、次に来た人も為にもわかるようにしておいた方がいいし、そのような気持ちが必要だし、ひとつずつ細かいですけどやっていくべきだと思う。

臼杵会長	他にいかがでしょうか？
伊藤委員	事業計画の1 佐渡市生涯学習 (3) 自然を守りトキと共生する環境の島 とは、 ということですか？つまり、林業や農業というのは最悪の自然破壊です。トキと 共生するってどのようなことなのかなと。
渡辺課長	考え方としては、農業を自然破壊と考えるか、里山という概念で水田の在り方を 考えるかで分かれているところだと思います。そもそも、農業、水田がなければト キもいないと考えます。ですからそこをどう考えるかは、先生方によって分かれま すので、その議論は博物館協議会では避けて下さい。 2011 年の COP10 生物多様性国際条約でも、日本の里山という「水田を中心にした 自然形態」の在り方、それを自然というのかという議論はもちろんあります。それ を言う限り、日本にはもう自然はないと考えています。要は、森林共生が出来る所 はもう自然ではないわけですから。自然という概念を手付かずの自然と考えるか、 日本型の里山で考えるか、根っこが深いところかもしれません。例えば農業でも、 農薬をまかなければいいのか、農薬を撒くと環境破壊になるのか、そもそも水田の 形態自体が環境破壊になるのか、というところもございます。あと、国土の形成と いう点で、森林共生は災害を招いている所もありますので、非常に難しい問題にな ります。 トキとの共生というのは、基本的にはトキが生息できる様な昔の生物多様性を取り 戻していきたい、それはやはり農業中心だろうという事になるだろうと思いき ますが、もちろんそれだけではありません。河川再生などを含めて色々ありますので、 ここで議論するよりも自然多様政策の中で議論が必要かなと思います。
伊藤委員	でも、トキはどんどん増えますから。江戸時代に戻るにしても、本土側では「ト キが悪さして困るということで、塩漬けにして佐渡に捨ててこい」という話もある くらいで、迷惑千万なんですよね。どんどん迷惑になると思います。それでも共生 するんですか？
渡辺課長	トキが邪魔だったと言いますが、多くて邪魔だったのか、捕獲できなくて邪魔だ ったのか、記録はありません。伊勢神宮から守られてきた鳥なので、殺したくても 殺せず、幕府に嘆願書が出ているケースもあります。 トキとの共生といっても、トキだけが生きる社会でもありませんし、佐渡にトキ が何万羽生息するということもあり得ないと考えています。日本からいなくなった トキを、生態系の一部としてどのように保護していくかは日本全体のチャレンジで もありますし、佐渡市生涯学習計画の中では考えていないという事です。
伊藤委員	重要な書き物に出てきていますから。トキはやはり、イネを踏んでめちゃくちゃ にするんですよ。沢根の方面でも市に文句を言いなさいと言っています。補助金と かそんなのが出てきて、それで共生していく、あなたたちが我慢をする必要はない

	んだという話をやっていたものですから。でも今はトキをどんどん増やそうということで。
渡辺課長	それも補助金を用意しました。調査もしました。ですが、ほぼ米に影響はありません。多少踏んでも影響ありません。そもそも、米は苗の段階から分けつしてどんどん増えて行く生物ですので、その一株がなくなっても隣が分けつし収量は変わらない性質があります。よっぽど踏んだ場合は補てんしますという事で（補助額を）計算しましたが、数字にすると 10 アール 1000 円位です。「トキがいることによって、田んぼの姿形が乱れるのが嫌だという方が多い」というのが分析です。収量が落ちるのではなくて。先生がおっしゃることも十分承知しております。 宮城の大崎市ではマガンでやっています。マガンは草食なので米を食べるため、食害条例を作ってそれを補てんしますとしましたが、今のところ農家からの申請は一度もないそうです。ですから、地域の中で共生という世界をどう描くか次第だと思いますし、犠牲になる必要ありません。
伊藤委員	そのような事をわかっていて書いてるのであればいいですけど、結構トキに踏まれたやつは被害受けていますよ。ただお上のすることだからって我慢している人も多いという事をわかっていてほしいです。
加藤委員	この間テレビでやっていましたよね。新穂も方がそれを批判的に言っていて、新潟大学が調査をしたところ初期段階で踏んだ場合は 50%の減収という結果が出たという事でした。
渡辺課長	私はその数字は当てにしません。稲の場合、一株の減収が 50%かもしれませんが、一株がだめになったら隣の株がすごく増えるんですよ。10 アールの収入には（新潟大学の調査結果は）当てはまらないと思いますけど、稲株の話となると、もしかしたら当てはまるかもしれない。ですから、そのようなところは今後しっかりと検査をしていって、農家さんが犠牲になる必要はないと思います。
加藤委員	トキは今、人間より上の段にいるような感じがして、自然界に 300 羽を超える時がいるようになったら、やり方をやや変えていかなければならないのかなと思います。そのような時期に来ているのかなと思います。
岡部センター長	話が逸れますが、我が家では昨日から民泊を受け入れていて、十日町から女の子が来ています。朝 6 時に起きたので「何する？」と聞いたら「散歩しながらトキを見たいな」と。5 月 27 日の朝そこに行くということで、5 時過ぎに行って草刈をしたんです。その時トキが舞っていたので、もしかしたらそこに巣があるのかなと思って、そこに行ったら見られるかなと思って行きましたが、見られませんでした。そのような事があって、トキもそのような部分（観光）では貢献しているのかなと思うところもあります。

渡辺課長	トキであろうが、世界遺産であろうが、何事にもメリット・デメリットはあると思います。それをどのように活用していくのかをきちんと議論していく事が大切だと思います。
伊藤委員	きれい事だけではダメだよという事です。
臼杵会長	佐渡市全体でトキとの共生について考える会議があるの？
渡辺課長	環境課がやるのでは？共生と書かれていますが、トキのために何かしようとはここの中では書かれていません。
臼杵会長	これは佐渡市全体として近々の課題であり、避けては通れないのだから、市全体のどこかできちんと会議したり協議したり当然準備しなければならない。
渡辺課長 渡辺課長	担当セクションに伝えます。農業政策課でもやっていたと思います。自分が農業政策課にいた頃は毎年調査していました。私は、テレビとか新大ではなく、実地調査をもとに申し上げております。この後、担当セクションに、農家さんの意見などを中心に吸い上げる様な対応をするよう連絡しておきます。
臼杵会長	他にどうぞ。
池田 副会長	(3)の企画計画を見ると、佐渡博物館の企画展示が増えて嬉しいのですが、まだ新穂資料館の方が多いなと感じます。博物館は好きでよく行きますが、県の博物館などに行くと、県内の博物館等の1年間の行事計画パンフレットが置いてありますが、佐渡博物館は載っていませんよね。来年度どういう企画をしたいのか、事前に計画を立てて、ああいうところに載せてもらおうと、他の博物館行った人が佐渡でこんなものがあるのかと知って、佐渡へ流れてくる人もいるのではないかと思います。 私も「これをやらないか」と言った事があるのですが、なかなか動いてくれないけれど、予算がついたから急にやったりする。行き当たりばったり感が非常に強いので、少なくとも一年先の催しについてはそのようなところに載せると目的を明確にして欲しい。その辺は是非、二人も学芸員が着いたことが嬉しいので、その力を発揮して頂きたいと思います。いろんな博物館のイベントを書いたチラシみたいなものが、県の博物館協議会かな？から出ています。
小見委員	11月くらいでないと佐渡市の予算は決まらないでしょ？極端に言うと、3月の議会で承認されないと予算が立たないんだから、そとに出すなと昔県からかなり言われました。そのため予備費というのがあって、予備費を貰って展覧会の準備をするという風にも書いてあるんですが、本当に、真面目に考えるとそうなんです。3月の議会で同意されない予算で何かやれるのかと言われてしまうんです。そんな事を言われてはどうしようもないから、佐渡市の来年度予算が決まった段階で情報を出

	せると思うので、その時に博物館協議会に出されたら載せますよ。
池田 副会長	どちらにしる、佐渡博物館は載ったことがないんです。見たことないです。
岡部センター長	池田先生が言うように、今までは来月の事が今月決まるような感じでしたが、役所の単年度主義の為一年前の情報発信は出来ないにしても、4月の総会で今年一年佐渡博物館ではこのような事をしますよと情報発信できるような形にしたいと思います。今年初めて県の総会に行ったのですが、他の博物館は出ているんですよね。何月に何をするかという事が。佐渡市は埋文の巡回展くらいしか決まっていないう状態で、やはり総会時に年間行事予定を出せるくらいまでには持って行きたいと思います。
池田 副会長	そうしてもらおうと、佐渡で何をやっているのかを分かってもらえると思うの。
小見委員	この体制で、よく年間通してこんなに事業をおやりになっているなと思います。例えば、学校を対象としたキャリア教育ですが、学校が4校か5校ですがこれは、どなたがやっているんですか？
本間係長	去年は、世界遺産推進課と連携しながらやっています。こちらではバスの手配や講師の手配などをやっています。基本的には世界遺産推進課の職員と指導員と連携しながら実施しています。新穂に関しましては、資料館の友の会の会員の方に案内していただく形になっています。
小見委員	佐渡市の社会教育施設で指定管理しているところはあるのでしょうか？
渡辺課長	体育館とかはそうです。文化系はないですね。
小見委員	この職員の数でこれだけの施設を運営しているのはすごいなと思います。確かに、質問を受けて、別の人を紹介して切っちゃうというのも問題だと思いますが、当館ではなかなか分からないので別の所に回してしまうという事もありました。 図書館レファレンスとは違って、博物館・美術館レファレンスと言うのは、詳しい人を紹介することもレファレンスだと思っているんです。ですから、受け答えに関して若干議論があるかと思いますが、自分の所で処理できないことに答えて後で迷惑をかけるよりも、よく知っている方に聞いてもらうように手配することは全然問題ないと思います。
池田副会長	今の件に関して、先ほど伊藤正一先生が言われたように、チームを作っておいて、このような問合せがあったら協力お願いしますねとしておいたらいいけど、私が聞いた数名の方はいきなり博物館から紹介されたりとかして、電話がきてというお話を聞いています。事前をお願いしますと言っていただければいいけど、事前に聞いてないの

	に突然直接電話を貰ってびっくりしたそうです。 そういう意味で、チームワークというか、地域にいろんな人がいるので上手く活用して、事前に協力をお願いしておいてもらえれば、対応できるのではないかと思いますし、すぐに紹介してもいいと思います。なんでも質問くるんですよね、幅広く。佐渡博物館が佐渡市の知的な顔になっているんですよね。一応玄関口だけど、それが変な見方をされたら困るな、さびしいなと思っています。
臼杵会長	他にいかがでしょうか。
伊藤委員	年間事業計画に「調査・研究・収集事業」とありますが、調査研究をやったあと、報告はどうするんですか？つまり、館報はないのかという事なんですが。佐渡の人は一般の方でも色々と調べている方が多いので、研究成果を一般の人も含めて発表し、活字にしてあげたいなと思っているんですけど、どこでやったらいいのかとなります。 例えば、柏崎の博物館あたりは毎年館報を出していて、自然科学から色々なものを集めている訳です。一般の人たちから。私たち周辺の人でなくていいので、是非投稿して下さいとか、そういうのをやると、佐渡に住んでいる人たちが好きな人は、まとめてもらって出してみようかという人たちが結構いると思います。
岡部センター長	今の所、そのような体制は出来ていません。他からは立派な館報が来ますが、今すぐ作るという回答にはできないので、出していませんとしか答えられないです。
池田副会長	関連してよろしいですか？今、ジオパーク推進室が「佐渡の自然史」というのを毎年発刊しています。それを「自然史」というテーマにしたのは、財団法人佐渡博物館の時に佐渡の自然に関する報告書を何巻も出していたのですが、それが途絶えたので、なんとか継続・復活させたいと小林先生が中核になってやったものです。 最初のうちはジオパーク、地質中心でしたが、少しずつ範囲を増やしていこうという形にしたものですから、ジオパークに関わらず、佐渡の自然史全体を発展させようという願いも込めてあります。私も何年か行政にいましたが、各縄張りが強いというか、横の連携があまりしませんが、今言われたようなことの舞台は、スタート地点では作っています。作りました。
伊藤委員	ジオパークは佐渡博物館とは関係ないんですよね？
池田副会長	最初是一緒だったから。スタート地点では一緒だったんです。同じ教育委員会内で同じなんだから。
渡辺課長	昔ジオパークが博物館内にあったこともありましたが、場所が狭く研究等も一切できない状況で、紆余曲折しながら今は畑野行政サービスセンターに入っています。佐渡博物館にジオを入れたいという議論をしていますが、博物館が拠点施設と

	して置かれていることは事実ですが、ジオパーク職員が博物館にいるという体制は出来ていません。
岡部センター長	平成 21 年から「佐渡学センター」という看板を掲げています。佐渡学センターということであれば、ジオも含めた物になると思いますが、現実問題そのような対応が出来ていません。今後どう解決していくかというのは大きな課題となってくると思います。
伊藤委員	ジオパークと佐渡学センター、一体どういう関係になっているのかよくわかりません。外部の人は分かりませんよ。
小見委員	先ほどの職員紹介も佐渡博物館分のみの紹介ですし、佐渡学センターは設置条例上、どこに所属するんですか？
岡部センター長	職員もうまく説明できない状況です。平成 16 年に佐渡市が誕生し、当時の市長から「佐渡伝統文化研究所をやります」という提案があり、2 年間の準備室（前身組織）を経て、平成 18 年に「佐渡伝統文化研究所」を佐渡博内に設けました。「ジオパーク」と言うものが出てきた時、「伝統文化」研究所だとジオを入れられないので、今の佐渡学センターの看板が出来ました。さっき先生が言われたように、博物館なのに職員が対応できない。佐渡学センターとしての実力を発揮できてないというか……。
小見委員	でも、送っていただいた印刷物には、すべて佐渡学センターで発行されたと奥付に記載があると思います。成果物は作られているので、実態としてちゃんとおやりになっていると理解しています。さっきの、調査・研究、これは大変です。今、近代美術館では紀要を出し続けていますが、これはちょっと大変ですよ。正直言って、これをちゃんとおまとめになっていて、それだけでも大変なことです。これに加えて、原稿用紙 20 枚の紀要を書けなんて、言えません。 しかし、新しい学芸員の方がどのような専門性をお持ちになっているか分かりませんが、是非頑張ってください、「私に紀要を書かせろ」くらいの事を上司に、叱咤激励するくらいの事を期待しています。
池田副会長	伝統文化研究所準備室、伝統文化研究所、佐渡学センターに連続 10 年勤めていましたが、私がいる間は佐渡学センターの中で博物館業務を管理も含めてやっていたと思います。おっしゃるように、人力的に不可能な面もあります。いつの間にか佐渡学センター＝博物館管理になってしまって、佐渡学センターが消えたんじゃないかって思うくらい、博物館の管理で精いっぱいというのが現状です。 当時、年報とか研究集とかは私が発刊していたので、職員に出来るだけ書いてくださいとお願いしていたんですが、そのうち囑託ばかりが原稿を書いて、職員は書く余裕もない状況で、研究成果を報告しようというのが消えてしまって、組織と

	してちょっと……。
渡辺課長	組織論になっているので。今、文化財室も、本庁の市長部局になっています。基本的に股裂きになっている状況です。世界遺産関連も市長部局です。今後、世界遺産の登録がされた時に、組織をどうしていくのか等の議論があると思います。今、少ない人的資源を分けながら世界遺産登録を中心にやっているのですが、こちらの組織が弱くなっているのは事実かもしれませんが、世界遺産登録を踏まえながら対応していきたいと思います。 人の数は簡単には増えない状況です。また、二人の新しい学芸員もこの後いろんなことを学びながら、しっかりと成長するよう指導していくべきだと思います。今日はここまでしかご返答できないのですが、ご意見をいただく形でご容赦いただければと思います。
小見委員	佐渡博物館がまだ財団だった頃、佐渡博物館がどうなるのかをはっきりしてくれないと佐渡の文化行政は回らないという議論を、4年か5年やった記憶があります。それで佐渡博物館が市立博物館になったんです。今度は世界遺産に登録されるかされないかという話になって、登録されたら体制をきちんと整備するという事ですか？
渡辺課長	そのような構想が必要だと思います。登録されると、活用と保全という部分に分かれてくると思います。今は一緒にやっていますが、どちらかというと、研究を国にあげているのが世界遺産の作業です。そういう中で、組織体制も含めてどうしていくかという議論がでてくると考えています。今の段階では申し上げられませんが、それらも含めながら組織については考えていきたいと思います。
臼杵会長	今、調査・研究・収集についてその報告はどうなんだという質問でしたが、なかなか大変な事でしょうから、今後検討して頂きたいと思います。だいたいいい議論になってきましたが、他に事業計画についてご意見があれば。ありますか？
池田副会長	学校教育、キャリア教育の中で、博物館に来る小中学校はどのくらいあるのでしょうか？また、博物館を身近に感じたり、学習の場となったりするための工夫はされているのでしょうか？ここにはそのような対応については一切書いてないのですが、博物館というのは教育の場として大切なものとして考えているのですが、その辺の対応がないので。
本間係長	本日も遠足で加茂小学校（市外）が佐渡博物館の方に来まして、五十嵐が説明をし、対応しました。
小見委員	今日の朝、船の中で、修学旅行生が100人くらい乗っていました。佐渡金銀山に行くと言っていました。小学生が船で修学旅行に来ることは結構あるんですか？

石川委員	今年は少なかったですが。修学旅行は6月に終わって、7月になるともう少し研究的な感じで、ちょっと趣旨が変わってくるかなと思います。
池田副会長	私が言うのは、宣伝（広報）以外にも、教育への支援とかっていう項目があってもいいんじゃないかと思うということです。博物館を学校教育の場として活用して欲しいなと思います。以前は「博物館を少しでも身近に」ということで、財団の頃は、夏休みに子供たちを呼んで、色々な体験活動をしたりしていました。やはり、身近に接するような、学校に宣伝したりして、活動してもらえたらいいと思います。多忙ですけれども、やれという訳ではないですけれども。
臼杵会長	他にご意見がなければ次に移りたいと思います。 6 その他
岡部センター長	冒頭、高藤前館長からもありましたが、5つある登録博物館を佐渡博物館1つにして、他館を分館にする構想を考えています。前年の協議会で計り、承認いただいたのですが、その後進んでいません。また専門部会等を設けて進めて行きたいと思っていますが、条例の改正等も含んでいますので、こちらが案を作ってすぐ解決という形にはなりません。方向性だけを確認して、その他については順次進めていくという事でご了解いただければと思います。
萩野委員	去年、サンアローさんの跡地が収蔵庫に使えるそうだという話が出ていましたが、その後進展はありますか？
岡部センター長	財務課の方が管理しています。財務課の施設管理の担当は、文化財室と佐渡博の共同使用として一画を貸すよと言われたのですが、文化財室は埋蔵文化財センターを作りたいから全部欲しいようで、どうするのかという段階で話が終わっています。使うかどうか今の段階では分からない状況です。
萩野委員	倉庫も点在しているし、空き家もどんどん増えてきているし、貴重な資料も民家に残っていることもあるだろうし、早急に対策をたてて進めていただきたいと思います。
岡部センター長	博物館の考え方と、安全な収蔵施設も含めて考えないといけないと思います。
臼杵会長	7 閉会